

平成26年度代表派遣 配分計画及び実施計画の変更並びに会議派遣者の決定について

提案理由 第31回 ICSU 総会がニュージーランドのオークランドで開催される。総会では各役職の選挙が行われ、異会員は Ordinary member に立候補している。そのため異会員を派遣したい。については、配分計画及び実施計画を変更したい。

派遣者 巽 和行 (第三部会員)

用務期間 平成26年8月31日(日)～9月3日(水) ニュージーランド オークランド

	配分計画時 (H26.1.31 幹事会決定)	実施計画時 (H26.2.27 国際委員会決定)	変更	変更後の配分計画 (案)
一般代表派遣 予算額	21,511 千円	21,511 千円	第31回国際科学会議(ICSU) 総会 当初派遣予定 2名から1名追加	21,511 千円
第1区分	9,200 千円 (19 会議 20 人)	9,197 千円 (19 会議 20 人)	→	9,480 千円 (19 会議 21 名)
第2区分	4,500 千円 (6 会議 8 人)	4,027 千円 (6 会議 8 人)	→	4,500 千円 → 4,027 千円
第3区分	7,700 千円 (19 会議 19 人)	7,453 千円 (19 会議 19 人)	→	7,700 千円 → 7,453 千円
(未配分額)	約 111 千円	約 834 千円		約 551 千円 (調整費)

平成26年度代表派遣実施計画変更案 (第1区分のみ)

<第1区分>

(平成26年3月20日幹事会にて決定)

番号	会議名	会期	開催地	派遣人員	
1	第20回国際土壌科学連合(IUSS)国際土壌科学会議	2014/6/8 ~ 2014/6/13	濟州 (韓国)	1	
2	国際微生物学連合(IUMS)国際微生物会議2014	2014/7/27 ~ 2014/8/1	モントリオール (カナダ)	1	
3	第40回宇宙空間研究委員会(COSPAR)科学総会	2014/8/2 ~ 2014/8/10	モスクワ (ロシア)	1	
4	第18回国際純粋応用生物物理学連合(IUPAB)国際生物物理学大会	2014/8/3 ~ 2014/8/7	ブリスベン (オーストラリア)	1	
5	国際結晶学連合(IUCr)総会	2014/8/5 ~ 2014/8/12	モントリオール (カナダ)	1	
6	国際数学連合(IMU)総会及び国際数学者会議	2014/8/10 ~ 2014/8/21	ソウル (韓国)	1	
7	国際地理学連合(IGU)2014年国際地理学会議	2014/8/14 ~ 2014/8/22	クラコフ (ポーランド)	1	
8	第31回国際電波科学連合(URSI)総会	2014/8/16 ~ 2014/8/23	北京 (中国)	1	
9	国際理論応用力学連合(IUTAM)総会	2014/8/17 ~ 2014/8/20	リンビュー (デンマーク)	1	
10	第19回国際自動制御連盟(IFAC)世界大会	2014/8/22 ~ 2014/8/30	ケープタウン (南アフリカ)	1	
11	第33回南極研究科学委員会(SCAR)総会	2014/8/23 ~ 2014/9/3	オークランド (ニュージーランド)	1	
12	第23回国際光学委員会(ICO)総会・理事会	2014/8/26 ~ 2014/8/29	サンティアゴ・デ・コンポステーラ (スペイン)	1	
※	13	第31回国際科学会議(ICSU)総会	2014/8/31 ~ 2014/9/3	オークランド (ニュージーランド)	3
14	第21回国際鉱物学連合(IMA)総会	2014/9/1 ~ 2014/9/5	ヨハネスブルク (南アフリカ共和国)	1	
15	2014年度海洋研究科学委員会(SCOR)総会	2014/9/15 ~ 2014/9/18	ブレーメン (ドイツ)	1	
16	国際農業工学会(CIGR)2014年総会・幹部会及び関連会議	2014/9/15 ~ 2014/9/19	北京 (中国)	1	
17	第13回太陽地球系物理学科学委員会(SCOSTEP)総会(STP-13)及びVarSITI国際協同プログラム第2回運営会議	2014/10/12 ~ 2014/10/17	西安 (中国)	1	
18	世界工学団体連盟(WFEO)総会・理事会・災害リスクマネージメント委員会	2014/11/2 ~ 2014/11/7	アブジャ (ナイジェリア)	1	
19	科学技術データ委員会(CODATA)第24回国際会議・第29回総会	2014/11/3 ~ 2014/11/7	ニューデリー (インド)	1	

※ 変更点:派遣人数(2名→3名)

○代表派遣:平成26年7-9月期の会議派遣候補者(変更案)

(平成26年5月30日幹事会にて決定)

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
1	国際微生物学連合(IUMS)国際微生物学会議2014	7月27日	6日	モントリオール	富田 房男 特任連携会員 放送大学客員教授	IUMS分科会 第1区分
		8月1日		カナダ		
2	国際宗教学宗教史学会(IAHR)理事会	7月30日	5日	ケープタウン	藤原 聖子 連携会員 東京大学大学院人文社会系研究科准教授	哲学委員会 第3区分
		8月3日		南アフリカ共和国		
3	第40回宇宙空間研究委員会(COSPAR)科学総会	8月2日	9日	モスクワ	新井 康平 特任連携会員 佐賀大学大学院教授	COSPAR分科会 第1区分
		8月10日		ロシア		
4	第18回国際純粋応用生物物理学連合(IUPAB)国際生物物理学大会	8月3日	5日	ブリスベン	永山 國昭 特任連携会員 総合研究大学院大学理事	IUPAB分科会 第1区分
		8月7日		オーストラリア		
5	国際結晶学連合(IUCr)総会	8月5日	8日	モントリオール	菅原 洋子 連携会員 北里大学理学部教授	IUCr分科会 第1区分
		8月12日		カナダ		
6	第5回女性物理学国際会議(国際純粋・応用物理学連合(IUPAP)関連会議)	8月6日	4日	ウォータールー	渡辺 美代子 第三部会員 (独)科学技術振興機構研究開発戦略センターフェロー	IUPAP分科会 第3区分
		8月9日		カナダ		
7	国際数学連合(IMU)総会及び国際数学者会議	8月10日	12日	ソウル	小澤 徹 第三部会員 早稲田大学理工学院教授	IMU分科会 第1区分
		8月21日		韓国		
8	国際地理学連合(IGU)2014年国際地理学会議	8月14日	9日	クラコフ	氷見山 幸夫 第三部会員 北海道教育大学教授	IGU分科会 第1区分
		8月22日		ポーランド		
9	第31回国際電波科学連合(URSI)総会	8月16日	8日	北京	小林 一哉 連携会員 中央大学理工学部電気電子情報通信工学科教授	URSI分科会 第1区分
		8月23日		中国		
10	国際理論応用力学連合(IUTAM)総会	8月17日	4日	リンビュー	佐野 理 特任連携会員 東京農工大学大学院工学研究院教授	IUTAM分科会 第1区分
		8月20日		デンマーク		
11	第19回国際自動制御連盟(IFAC)世界大会	8月22日	9日	ケープタウン	片山 徹 特任連携会員 立命館大学理工学部客員教授	IFAC分科会 第1区分
		8月30日		南アフリカ		
12	第33回南極研究科学委員会(SCAR)総会	8月23日	12日	オークランド	伊村 智 特任連携会員 国立極地研究所教授	SCAR分科会 第1区分
		9月3日		ニュージーランド		
13	第23回国際光学委員会(ICO)総会・理事会	8月26日	4日	サンディアゴ・デ・コンポステーラ	荒川 泰彦 第三部会員 東京大学生産技術研究所教授	ICO分科会 第1区分
		8月29日		スペイン		
14	第31回国際科学会議(ICSU)総会	8月31日	4日	オークランド	大西 隆 第三部会員 豊橋技術科学大学学長	国際委員会 第1区分
		9月3日		ニュージーランド		

○代表派遣:平成26年7-9月期の会議派遣候補者(変更案)

※
今回追加分

番号	国際会議等	会 期		開催地及び用務地	派遣候補者 (職名)	備考
			計			
15	第31回国際科学会議(ICSU)総会	8月31日	4日	オークランド	春日 文子 第二部会員 国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長	国際委員会 第1区分
		～ 9月3日		ニュージーランド		
16	第31回国際科学会議(ICSU)総会	8月31日	4日	オークランド	巽 和行 第三部会員 名古屋大学物質科学国際研究センター特任教授	国際委員会 第1区分
		～ 9月3日		ニュージーランド		
17	第21回国際鉱物学連合(IMA)総会	9月1日	5日	ヨハネスブルク	坂野 靖行 特任連携会員 (独)産業技術総合研究所主任研究員	IMA分科会 第1区分
		～ 9月5日		南アフリカ共和国		
18	第7回IAP若手科学者会議2014	9月10日	3日	天津	竹村 仁美 特任連携会員 愛知県立大学外国語学部准教授	若手アカデミー委員会 第3区分 ※主催者による選考から漏れた場合については派遣を中止
		～ 9月12日		中国		
19	第7回IAP若手科学者会議2014	9月10日	3日	天津	林 秀弥 連携会員 名古屋大学教授	若手アカデミー委員会 第3区分 ※主催者による選考から漏れた場合については派遣を中止
		～ 9月12日		中国		
20	2014年度海洋研究科学委員会(SCOR)総会	9月15日	4日	ブレーメン	蒲生 俊敬 連携会員 東京大学大気海洋研究所教授	SCOR分科会 第1区分
		～ 9月18日		ドイツ		
21	国際農業工学会(CIGR)2014年総会・幹部会及び関連会議	9月15日	5日	北京	梅田 幹雄 連携会員 京都大学キャリアサポートルーム室長・特任教授・名誉教授	CIGR分科会 第1区分
		～ 9月19日		中国		
22	湖水と人類の相互作用に関する国際ワークショップ(国際第四紀学連合(INQUA)関連会議)	9月15日	5日	アンカラ・コンヤ	奥村 晃史 連携会員 広島大学大学院文学研究科教授	INQUA分科会 第3区分
		～ 9月19日		トルコ		
23	第4回国際古生物学会議及び国際古生物学協会(IPA)総会(国際地質科学連合(IUGS)関連団体の総会)	9月28日	6日	メンドーサ	北里 洋 第三部会員 (独)海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域領域長	IUGS分科会IPA小委員会 第3区分
		～ 10月3日		アルゼンチン		

(提案 1 1)

公開シンポジウム「未来を拓く学術のあり方：教育と研究」の開催について

1. 主 催： 日本学術会議 化学委員会、
大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所、
公益社団法人日本化学会

2. 共 催：なし

3. 後 援：なし

4. 日 時：平成 26 年 8 月 29 日（金）13：00 ～18：00

5. 場 所：岡崎コンファレンスセンター

6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

「未来を拓く学術のあり方」について、教育と研究という視点から化学の社会に果たすべき役割、大学及び共同研究機関の役割と教育と研究運営、研究の展望と夢、科学政策・評価などについて各界の意見考えを基に多角的統括的に討議する。

8. 次 第(案)：

13：00 挨拶 大峯 巖(日本学術会議連携会員、分子科学研究所所長)
報告 栗原 和枝*(日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子
材料科学高等研究機構教授)

「基調講演」司会 巽 和行*(日本学術会議第三部会員、名古屋大学教授)
13：10-13：50 野依 良治(日本学術会議連携会員、独立行政法人理化学研
究所理事長)

「題目未定」

「第 1 部」

13：50-14：10 西出 徹雄 (日本化学工業協会専務理事)

- 「企業から博士人材への期待」
 14 : 10-14 : 30 西原 寛 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科化学専攻教授)
- 「高校生への化学普及の取り組み」
 14 : 30-14 : 50 講師 検討中 (企業より)
- 「理系学生の就職活動時期を考える」
 コーヒーブレイク 15 : 10-15 : 30
- 「第2部」
 15 : 10-15 : 30 講師 検討中
- 15 : 30-15 : 50 大峰 巖 (日本学術会議連携会員、分子科学研究所所長)
- 「分子研、自然機構での研究戦略への取組」
 15 : 50-16 : 10 中村 栄一 (日本学術会議連携会員、東京大学大学院理学系研究科教授)
- 「化学の科学・夢ロードマップ」
 16 : 10-16 : 30 川合 知二 (日本学術会議連携会員、大阪大学産業科学研究所特別教授)
- 「産学連携研究の今後のあり方」
 16 : 30-16 : 50 講師 検討中
- 1
 6 : 50- 17 : 50 自由討論 (参加者全員) 「未来を拓く学術のあり方：教育と研究」
 ディスカッションリーダー
澤本 光男* (日本学術会議第三部会員、京都大学大学院工学研究科教授)
- 17 : 45 終了挨拶 川合 真紀* (日本学術会議第三部会員、独立行政法人理化学研究所理事)

交流会 18 : 10-20 : 00

世話人： 小杉 信博 (分子科学研究所教授)
 中條 善樹 (日本化学会副会長、京都大学大学院工学研究科教授)
栗原和枝* (日本学術会議第三部会員、東北大学原子分子材料科学高等研究機構教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催委員会委員)

(提案 1 2)

公開シンポジウム「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な
社会の形成に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 地球惑星科学委員会 地球・人間圏分科会
2. 共 催：(社)日本地球惑星科学連合
3. 後 援：なし
4. 日 時：平成 26 年 9 月 7 日（日）13:00～17:00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：

地球惑星科学委員会地球・人間圏分科会は提言「東日本大震災を教訓とした安全安心で持続可能な社会の形成に向けて」(案)の発出を予定している。本シンポジウムはこの提言を社会に広く認知し、理解し、活かしていただくための活動の一環であり、次代を担う高校生にも関心を持ち、理解してもらえようなわかりやすい内容を目指している。具体的には、提言(案)で取り上げている地震、津波、放射性物質の拡散、土地利用、極端現象、災害に関する教育・研究体制などの、社会の安全安心や持続可能性に係る主要なテーマについて、現状と問題点、それに対する提言の趣旨と意義などを、具体的事例を用いて紹介し、最後に総合討論の時間を設け、フロアとの間の相互理解と議論の深化を図りたい。なお講師は、分科会提言の社会へのアピールという本シンポジウムの性格上、ほとんどが地球人間圏分科会の委員である。

8. 次 第：

総合司会 春山 成子*（日本学術会議連携会員、三重大学大学院生物資源学
研究科教授）

開会挨拶 氷見山幸男*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

講演

平田 直* (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

- ・低確率かつ甚大被害の地震発生予測と意思決定

佐竹 健治* (日本学術会議連携会員、東京大学地震研究所教授)

- ・東日本大震災の教訓－津波被害軽減へ向けて

近藤 昭彦 (千葉大学リモートセンシングセンター教授)

- ・山村の広域放射能汚染と暮らしの回復・復興

鬼頭 昭雄* (日本学術会議連携会員、筑波大学生命環境系主幹研究員)

- ・極端な気象・気候現象による災害リスク増大への対応

山川 充夫* (日本学術会議第一部会員、帝京大学経済学部教授)

- ・『提言』を原災地ふくしまの視点から読む

氷見山幸夫* (日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授)

- ・安全安心で持続可能な土地利用に向けて、今なすべきこと

田中 和広* (日本学術会議連携会員、山口大学理事・副学長)

- ・災害に対する理解の向上、教育、情報の共有と伝達

安成 哲三* (日本学術会議第三部会員、総合地球環境学研究所所長)

- ・『提言』からフューチャー・アースへ(仮題)

鈴木 康弘* (日本学術会議連携会員、名古屋大学環境学研究科教授)

- ・防災・減災の社会的議論に資する研究・教育の実現

総合討論・閉会挨拶

碓井 照子* (日本学術会議第一部会員、奈良大学名誉教授)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案 13)

公開シンポジウム「一進む少子高齢化／大都市圏郊外自治体の構造的危機」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 政治学委員会、政治学委員会行政学・地方自治分科会、中央大学経済研究所
2. 後 援：なし
2. 日 時：平成 26 年 9 月 13 日（土） 13：30～16：45
3. 場 所：中央大学駿河台記念館講堂
4. 分科会の開催：開催予定なし

5. 開催趣旨

大都市圏も人口絶対減社会に入り始めた。かつて人口増対策として開発されたニュータウン、郊外の住宅団地や戸建て住宅群もいまやシルバータウンの様相を強め、子供、若者の少ないまちになり始めた。特に団塊の世代の大量退職に伴い、住民税を納める所得階層が急激に減り始め、一方で増える社会保障需要などに対応しきれず、財政危機が襲っている自治体も出始めている。自治体行政の構造的危機は今後より深刻度を増すのではないか。また地元の地方議会の議員にもなり手がないうなど無競争当選が相次ぐさまである。

大都市は豊かだとされた時代が去りつつある。都心部の自治体を含め、こうした構造的な危機にあえぎ始めた大都市圏自治体の実態とその問題点を明らかにする。その上で、待機児童ゼロ作戦など少子化対策、高齢者の職づくり戦略など新たな挑戦も生まれてきている。都市政策の方向転換を問う社会変動に自治体はどう立ち向かうか、実践の場で活躍する首長、学者らを招き、講演とディスカッションで徹底解明を図りたい。

6. 次 第

司 会 川井 綾子（フリーキャスター）

開会挨拶 猪口 邦子*(日本学術会議第一部会員、参議院議員)

<第 I 部・講演> 13：30～15：05

講演Ⅰ 曾根 泰教（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）
「少子高齢化が直撃する日本の大都市—東京が危ない」

講演Ⅱ 山崎 朗（中央大学経済学部教授）
「大都市圏郊外自治体の危機と地域政策」

講演Ⅱ 土居 丈朗（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授）
「大都市圏郊外自治体の空洞化と税財政」

<休憩>

<第Ⅱ部・パネルディスカッション>15:15～16:35（80分）

「進む少子高齢化/大都市圏郊外自治体の構造的危機」

パネリスト

並木 心（東京都羽村市長、東京都市長会副会長）

曾根 泰教（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授）

山崎 朗（中央大学経済学部教授）

土居 丈朗（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学経済学部教授）

コーディネーター

佐々木信夫*（日本学術会議第一部会員、中央大学経済学部教授）

16:35～16:45 閉会の挨拶

石川 利治（中央大学経済研究所長、経済学部教授）

7. 関係各部の承認の有無：第一部承認

（*印の講演者等は、主催委員会委員）

(提案 14)

公開シンポジウム「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 フューチャー・アースの推進に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会
2. 共 催：(社)日本地球惑星科学連合
3. 日 時：平成 26 年 9 月 14 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分
4. 場 所：日本学術会議
5. 分科会の開催：開催予定あり

6. 開催趣旨：

日本学術会議フューチャー・アースの推進に関する委員会持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会は「持続可能な未来のための教育と人材育成の推進に向けて」をテーマに審議を重ねて一定の成果を得たところである。本シンポジウムはこの成果を社会に広く認知し、理解し、活かしてもらうための活動の一環であり、次代を担う高校生にも関心を持ち、理解してもらえるようなわかりやすい内容を目指している。とりわけ、持続可能な未来の実現に向けた教育と人材育成の改善・強化は今すぐに取り組むべき課題であり、それは地球環境と世界の理解に直接関わる分野の教育はもとより、より広い自然科学・人文社会科学教育の再構築を目指すものである。その推進に向け、現状と問題点、それに対する提言の趣旨と意義などを、具体的事例を用いて紹介し、最後に総合討論の時間を設け、フロアとの間の相互理解と議論の深化を図りたい。なお講師は、分科会提言の社会へのアピールという本シンポジウムの性格上、ほとんどが持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会の委員である。

7. 次 第：

開会挨拶

氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

講演 (演題未定)

林 良嗣*(日本学術会議連携会員、名古屋大学持続的共発展教育研究センター長・教授)

宮寺 晃夫*(日本学術会議連携会員、筑波大学名誉教授)

山形 俊男*(日本学術会議連携会員、海洋研究開発機構横浜研究所アプリケーションラボ所長)

氷見山幸夫*(日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授)

小金澤 孝昭*(日本学術会議特任連携会員、宮城教育大学教育学部教授)

田中 邦明*(日本学術会議特任連携会員、北海道教育大学教育学部教授)

日置 光久*(日本学術会議特任連携会員、東京大学大学院教育学研究科特任教授)

福士 謙介*(日本学術会議特任連携会員、東京大学サステイナビリティ学連携研究機構教授)

田路 和幸*(日本学術会議特任連携会員)、東北大学大学院環境科学研究科研究科長・教授)

花木 啓祐*(日本学術会議第三部会員)、東京大学大学院工学系研究科教授)

閉会挨拶

花木 啓祐*(日本学術会議第三部会員、東京大学大学院工学系研究科教授)

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

(提案15)

公開シンポジウム「自然史標本の継承—人類の財産を失わないために今なすべきこと—」の開催について

1 主催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 自然史標本の文化財化分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会、基礎生物学委員会・統合生物学委員会・地球惑星科学委員会合同 自然史・古生物分科会

2 後援：未定

3 日時：平成26年9月19日（金）13：30～18：00

4 場所：日本学術会議講堂

5 分科会の開催：開催予定

6 開催趣旨：

東北地方の博物館等施設に保管されていた自然史標本が東日本大震災で被災したことを教訓に、自然史標本の公的位置づけについて、2年間に渡り自然史標本の文化財化分科会で論議してきた成果を社会に知らしめることを目的とする。

7 次第：

13:30—13:40 開催挨拶と趣旨説明

馬渡 駿介*（日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授）

13:40—14:10 「自然史標本の国家的収集・管理・活用と国立科学博物館」

林 良博*（日本学術会議連携会員、国立科学博物館館長）

14:10—14:40 「自然史標本と分類学」

大原昌宏（北海道大学総合博物館教授）

14:40—15:10 「自然史標本と生態学」

加藤 眞*（日本学術会議連携会員、京都大学総合人間学部教授）

15:10—15:30 （休憩）

15:30—16:00 「自然史標本と博物館」

- 瀬能 宏（神奈川県立生命の星地球博物館専門学芸員）
- 16:00－16:30 「自然史標本と文化財」
- 山崎 健（国立奈良文化財研究所埋蔵文化財センター研究員）
- 16:30－17:00 「自然史標本は自然史財である」
- 西田 治文*（日本学術会議連携会員、中央大学理工学部教授）
- 17:00－18:00 パネルディスカッション
- （司会）松浦 啓一*（日本学術会議特任連携会員、独立行政法人科学博物館特任研究員）
- （コメンテーター）講演者全員
- 18:00 閉会

8 関係部の承認の有無：第二部承認

（*印の講演者は、主催分科会委員）

(提案 16)

日本学術会議公開シンポジウム「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 東日本大震災復興支援委員会 災害に対するレジリエンスの構築分科会
2. 共 催：(社)日本地球惑星科学連合
3. 日 時：平成 26 年 9 月 28 日（日）13 時 00 分～17 時 00 分
4. 場 所：帝京大学医学部本館 209 教室
5. 分科会の開催：開催予定

6. 開催趣旨：

東日本大震災復興支援委員会災害に対するレジリエンスの構築分科会は提言「災害に対するレジリエンスの向上に向けて」(案)の発出を予定している。本シンポジウムはこの提言を社会に広く認知し、理解し、活かしていただくための活動の一環であり、次代を担う高校生にも関心を持ち、理解してもらえるようなわかりやすい内容を目指している。具体的には、提言(案)で取り上げている 継続的なリスク監視と日常的なリスクに対する備えの充実、レジリエンス向上のための防災・減災の推進、こころの回復を支える体制の整備、公衆衛生システムの改善、情報通信技術の一層の活用、開発援助プログラムへのレジリエンス能力の統合と活用などのテーマについて、現状と問題点、それに対する提言の趣旨と意義などを、具体的事例を用いて紹介し、最後に総合討論の時間を設け、フロアとの間の相互理解と議論の深化を図りたい。なお講師は、分科会提言の社会へのアピールという本シンポジウムの性格上、ほとんどが災害に対するレジリエンスの構築分科会の委員である。

7. 次 第：

開会挨拶

氷見山幸夫*（日本学術会議第三部会員、北海道教育大学教育学部教授）

矢野 栄二*（日本学術会議連携会員、帝京大学大学院公衆衛生学研究科

教授)

笠井 清登* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院医学系研究科教授)

西尾チヅル* (日本学術会議連携会員、筑波大学大学院ビジネス科学研究
科教)

那須 民江* (日本学術会議第二部会員、中部大学生命健康科学部客員教
授、名古屋大学名誉教授)

石川 幹子* (日本学術会議第三部会員、中央大学理工学部人間総合理工
学科教授)

小松 利光* (日本学術会議第三部会員、九州大学大学院特命教授・名誉
教授)

岩田 修一* (日本学術会議連携会員、事業構想大学院大学教授)

利島 保* (日本学術会議連携会員、広島大学医歯薬保健学研究院特任
教授)

仁平 義明* (日本学術会議連携会員、白鷗大学教育学部教授)

馬渡 駿介* (日本学術会議連携会員、北海道大学名誉教授)

閉会挨拶

矢野 栄二* (日本学術会議連携会員、帝京大学大学院公衆衛生学研究科
教授)

(*印の講演者は、主催分科会会員)

(提案 17)

公開シンポジウム「ナノ素材とナノ測定が拓くイノベーション」の開催について

1. 主 催：日本学術会議 化学委員会 分析化学分科会
2. 共 催：一般社団法人日本分析機器工業会、公益社団法人日本分析化学会
3. 後 援：公益社団法人日本化学会、独立行政法人産業技術総合研究所、独立行政法人科学技術振興機構
4. 日 時：平成 26 年 12 月 18 日（木）13：00～17：00
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定
7. 開催趣旨：

将来、我が国での科学イノベーションに繋がることを期待して、これまでに 2 回にわたり、分析化学分科会主催の先端分析化学・機器開発関連講演会を行ってきた。その 3 回目となる今回は、「学術のビジョンと大型研究計画（マスタープラン 2014）」に選ばれた本分科会から提案の「産学最先端分析技術・計測機器開発および共同利用コアコンピテンスセンター」の内容を紹介し、「ナノ素材とナノ測定が拓くイノベーション」と題した講演会を別紙のように企画した。この講演会を通じて、先端分析化学・機器開発の重要性、社会貢献などをアピールし、この分野の啓発を図る。
8. 次 第：

講演内容：（各講演は 40 分、質問 5 分）

13:00-13:10
はじめに：
「産官学共同で進める最先端分析技術および機器開発拠点構想」
鈴木 孝治*：（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学理工学部教授）

13:10-13:45
講演 1：
「ナノテクノロジーを活用したイノベーション創出に向けて - 何が必要か -」
一村 信吾*（日本学術会議連携会員、独立行政法人産業技術総合研究所理事）

13:45-14:20
講演 2：
「金ナノ粒子の機能と応用： 今後何を知る（測る）必要があるか（仮題）」
春田 正毅（首都大学東京環境都市研究科教授）

14:20-14:55

講演 3 :
「単層カーボンナノチューブの新たな産業展開と、ナノ素材計測への期待(仮題)」
荒川 公平 (日本ゼオン株式会社最高経営技監)

14:55-15:10

休憩

15:10-15:45

講演 4 :
「ナノ材料規制に向けた計測技術・装置開発-COMS-NANO 活動について」(仮題)」
吉田 佳一 (株式会社島津製作所常務執行役員)

15:45-16:20

講演 5 :
「ナノ素材計測に向けた共通プラットフォームの構築と展開 (仮題)」
藤田 大介 (独立行政法人物質材料研究機構共通の先端技術部門長)

16:20-16:55

講演 6 :
「放射光を用いたナノ材料の極限計測 (仮題)」
高田 昌樹* (日本学術会議連携会員、独立行政法人理化学研究所放射光科学
総合研究センター主任研究員、東京大学教授)

16:55-17:00

終わりに：ナノ材料と分析化学
尾嶋 正治* (日本学術会議連携会員、東京大学大学院工学系研究科応用化学
専攻教授、日本表面学会会長)

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

(*印の講演者等は、主催分科会委員)

提案18～19は別添なし。

第22期における分科会活動の総括結果

第一部

1. 廃止する分科会

次の分科会を廃止する。

- ・哲学委員会所属「共生と対話の人文学分科会」
- ・心理学・教育学委員会所属「身心教育を中心とした質保証のあり方検討分科会」
- ・心理学・教育学委員会所属「発達心理学分科会」
- ・心理学・教育学委員会所属「子ども・子育て環境の質保証のあり方検討分科会」
- ・心理学・教育学委員会所属「心理学分野の参照基準検討分科会」
- ・心理学・教育学委員会所属「教育のガバナンス分科会」
- ・社会学委員会所属「少子高齢社会分科会」
- ・社会学委員会所属「東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会」
- ・社会学委員会所属「社会福祉系大学院のあり方に関する分科会」
- ・社会学委員会所属「社会学分野の参照基準検討分科会」
- ・社会学委員会所属「社会福祉学分野の参照基準検討分科会」
- ・史学委員会所属「史学分野の参照基準検討分科会」
- ・地域研究委員会所属「大学教育の分野別質保証検討分科会」
- ・法学委員会所属「「IT社会と法」分科会」
- ・法学委員会所属「ファミリー・バイオレンス分科会」
- ・法学委員会所属「立法学分科会」
- ・法学委員会所属「「親密な関係に関する制度設計」分科会」
- ・法学委員会所属「大震災後の安全安心な社会構築と法」分科会
- ・法学委員会所属「ソーシャル・レジリエンスと法分科会」
- ・法学委員会所属「「学術法制」分科会」
- ・政治学委員会所属「社会科学統合データベース分科会」
- ・政治学委員会所属「政治学分野の参照基準検討分科会」
- ・経済学委員会所属「資産市場とマクロ経済分科会」
- ・経済学委員会所属「経済学分野の参照基準検討分科会」
- ・経営学委員会所属「「リスクを科学する」分科会」
- ・経営学委員会所属「高齢者の社会参画のあり方に関する検討分科会」
- ・部附置分科会「福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会」
- ・部附置分科会「人文・社会科学分野の大型研究計画分科会」
- ・部附置分科会「人文・社会科学振興分科会」

2. その他の意見

なし

以上

第22期における分科会活動の総括結果(第一部)

(★は、時限設置分科会)

1 委員会名:言語・文学委員会

委員長名:長島 弘明

	分科会名	存続・廃止
1	古典文化と言語分科会	○ 存続
2	文化の邂逅と言語分科会	○ 存続
3	科学と日本語分科会	○ 存続

2 委員会名:哲学委員会

委員長名:野家 啓一

	分科会名	存続・廃止
1	芸術と文化環境分科会	○ 存続
2	古典精神と未来社会分科会	○ 存続
3	いのちと心を考える分科会	○ 存続
4	哲学・倫理・宗教教育分科会	○ 存続
5	共生と対話の人文学分科会	× 廃止
★6	哲学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

3 委員会名:心理学・教育学委員会

委員長名:松沢 哲郎

	分科会名	存続・廃止
1	心理学教育プログラム検討分科会	○ 存続
2	心の先端研究と心理学専門教育分科会	○ 存続
3	脳と意識分科会	○ 存続
4	法と心理学分科会	○ 存続
5	健康・医療と心理学分科会	○ 存続
6	社会のための心理学分科会	○ 存続
7	発達心理学分科会	× 廃止
8	子ども・子育て環境の質保証のあり方検討分科会	× 廃止
9	身心教育を中心とした質保証のあり方検討分科会	× 廃止
10	実験社会科学分科会	○ 存続
★11	心理学分野の参照基準検討分科会	× 廃止

第22期における分科会活動の総括結果(第一部)

★12	教育のガバナンス分科会	× 廃止
★13	教育学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

4 委員会名:社会学委員会

委員長名:今田 高俊

	分科会名	存続・廃止
1	社会理論分科会	○ 存続
2	メディア・文化研究分科会	○ 存続
3	少子高齢社会分科会	× 廃止
4	社会福祉学分科会	○ 存続
5	ジェンダー研究分科会	○ 存続
6	包摂的社会政策に関する多角的検討分科会	○ 存続
7	社会変動と若者問題分科会	○ 存続
8	社会統計アーカイブ分科会	○ 存続
9	社会学コンソーシアム分科会	○ 存続
10	東日本大震災の被害構造と日本社会の再建の道を探る分科会	× 廃止
★11	社会福祉系大学院のあり方に関する分科会	× 廃止
12	複合領域ジェンダー分科会	○ 存続
★13	社会学分野の参照基準検討分科会	× 廃止
14	討論型世論調査分科会	○ 存続
★15	社会福祉学分野の参照基準検討分科会	× 廃止

5 委員会名:史学委員会

委員長名:木村 茂光

	分科会名	存続・廃止
1	博物館・美術館等の組織運営に関する分科会	○ 存続
2	歴史認識・歴史教育に関する分科会	○ 存続
3	歴史学とジェンダーに関する分科会	○ 存続
4	科学・技術の歴史的理論的社会的検討分科会	○ 存続
5	アジア研究・対アジア関係に関する分科会	○ 存続
6	文化財の保護と活用に関する分科会	○ 存続
7	歴史資料の保存・管理と公開に関する分科会	○ 存続

第22期における分科会活動の総括結果(第一部)

8	高校歴史教育に関する分科会	○ 存続
★9	史学分野の参照基準検討分科会	× 廃止

6 委員会名:地域研究委員会

委員長名:田中 耕司

分科会名	存続・廃止
1 地域研究基盤整備分科会	○ 存続
2 国際地域開発研究分科会	○ 存続
3 地域情報分科会	○ 存続
4 人文・経済地理と地域教育分科会	○ 存続
5 人類学分科会	○ 存続
6 多文化共生分科会	○ 存続
7 地理教育分科会	○ 存続
8 大学教育の分野別質保証検討分科会	× 廃止
9 地域学分科会	○ 存続
10 地域統合分科会	○ 存続
11 アジアの地域協力の学術的ネットワーク構築分科会	○ 存続

7 委員会名:法学委員会

委員長名:池田 眞朗

分科会名	存続・廃止
1 「IT社会と法」分科会	× 廃止
2 ファミリー・バイオレンス分科会	× 廃止
3 立法学分科会	× 廃止
4 「グローバル化と法」分科会	○ 存続
5 「親密な関係に関する制度設計」分科会	× 廃止
6 生殖補助医療と法分科会	○ 存続
★7 「大震災後の安全安心な社会構築と法」分科会	× 廃止
★8 ジェンダー法分科会	○ 存続
9 ソーシャル・レジリエンスと法分科会	× 廃止
10 「学術法制」分科会	× 廃止

第22期における分科会活動の総括結果(第一部)

8 委員会名:政治学委員会

委員長名:猪口 邦子

	分科会名	存続・廃止
1	政治思想・政治史分科会	○ 存続
2	比較政治分科会	○ 存続
3	行政学・地方自治分科会	○ 存続
4	国際政治分科会	○ 存続
5	政治過程分科会	○ 存続
6	社会科学統合データベース分科会	× 廃止
★7	政治学分野の参照基準検討分科会	× 廃止

9 委員会名:経済学委員会

委員長名:樋口 美雄

	分科会名	存続・廃止
1	人口変動と経済分科会	○ 存続
2	ワーク・ライフ・バランス研究分科会	○ 存続
3	数量的経済・政策分析分科会	○ 存続
4	資産市場とマクロ経済分科会	× 廃止
★5	経済学分野の参照基準検討分科会	× 廃止

10 委員会名:経営学委員会

委員長名:白田 佳子

	分科会名	存続・廃止
★1	「リスクを科学する」分科会	× 廃止
★2	高齢者の社会参画のあり方に関する検討分科会	× 廃止
★3	経営学大学院教育のあり方検討分科会	○ 存続

11 1部附置分科会

	分科会名	存続・廃止
1	福島原発災害後の科学と社会のあり方を問う分科会	× 廃止
★2	人文・社会科学分野の大型研究計画分科会	× 廃止
3	人文・社会科学振興分科会	× 廃止

第22期における分科会活動の総括結果(第一部)

計 86分科会

廃止・終了は29分科会 (うち時限設置分科会12)

第22期における分科会活動の総括結果

第二部

1. 廃止する分科会

次の分科会を廃止する。

- ・基礎生物学委員会所属「基礎生物学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・統合生物学委員会所属「統合生物学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・農学委員会所属「農学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・食料科学委員会所属「食料科学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・基礎医学委員会所属「病原体研究に関するデュアルユース問題分科会」
- ・基礎医学委員会所属「基礎医学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・臨床医学委員会所属「呼吸器分科会」
- ・臨床医学委員会所属「感覚器分科会」
- ・臨床医学委員会所属「腫瘍分科会」
- ・臨床医学委員会所属「免疫・感染症分科会」
- ・臨床医学委員会所属「消化器分科会」
- ・臨床医学委員会所属「臨床医学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・健康・生活科学委員会所属「健康・生活科学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・歯学委員会所属「歯科医療制度に関する検討分科会」
- ・歯学委員会所属「歯学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・薬学委員会所属「薬学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・二部附置分科会「ゲノムコホート研究体制検討分科会」

以上

第22期における分科会活動の総括結果(第二部)

(★は、時限設置分科会)

1 委員会名: 基礎生物学委員会

委員長名: 小原 雄治

	分科会名	存続・廃止
1	動物科学分科会	○ 存続
2	植物科学分科会	○ 存続
3	細胞生物学分科会	○ 存続
4	遺伝学分科会	○ 存続
5	分子生物学分科会	○ 存続
6	生物科学分科会	○ 存続
7	遺伝資源分科会	○ 存続
8	海洋生物学分科会	○ 存続
9	発生生物学分科会	○ 存続
10	総合微生物科学分科会	○ 存続
11	生物物理学分科会	○ 存続
12	ゲノム科学分科会	○ 存続
13	自然史標本の文化財化分科会(名称変更予定)	○ 存続
★14	基礎生物学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

2 委員会名: 統合生物学委員会

委員長名: 鷲谷 いづみ

	分科会名	存続・廃止
1	進化・系統学分科会	○ 存続
2	生態科学分科会	○ 存続
3	自然人類学分科会	○ 存続
4	自然史・古生物学分科会	○ 存続
5	行動生物学分科会	○ 存続
6	バイオインフォマティクス分科会	○ 存続
7	ワイルドライフサイエンス分科会	○ 存続
★8	統合生物学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

3 委員会名: 農学委員会

第22期における分科会活動の総括結果(第二部)

委員長名:西澤 直子

分科会名	存続・廃止
1 農学分科会	○ 存続
2 育種学分科会	○ 存続
3 農業経済学分科会	○ 存続
4 農業生産環境工学分科会	○ 存続
5 地域総合農学分科会	○ 存続
6 林学分科会	○ 存続
7 応用昆虫学分科会	○ 存続
8 土壌科学分科会	○ 存続
9 植物保護分科会	○ 存続
10 遺伝子組換え作物分科会	○ 存続
★11 農学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止
★12 農学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

4 委員会名:食料科学委員会

委員長名:野口 伸

分科会名	存続・廃止
1 水産学分科会	○ 存続
2 畜産学分科会	○ 存続
3 獣医学分科会	○ 存続
4 農芸化学分科会	○ 存続
5 農業情報システム学分科会	○ 存続
6 食の安全分科会	○ 存続
7 東日本大震災に係る食料問題分科会	○ 存続
★8 食料科学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

5 委員会名:基礎医学委員会

委員長名:大隅 典子

分科会名	存続・廃止
1 形態・細胞生物医科学分科会	○ 存続
2 機能医科学分科会	○ 存続

第22期における分科会活動の総括結果(第二部)

3	免疫学分科会	○ 存続
4	病原体学分科会	○ 存続
5	生体医工学分科会	○ 存続
6	神経科学分科会	○ 存続
7	実験動物分科会	○ 存続
★8	病原体研究に関するデュアルユース問題分科会	× 廃止
★9	基礎医学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

6 委員会名: 臨床医学委員会

委員長名: 樋口 輝彦

	分科会名	存続・廃止
1	呼吸器分科会	× 廃止
2	循環器・内分泌・代謝分科会	○ 存続
3	脳とこころ分科会	○ 存続
4	感覚器分科会	× 廃止
5	出生・発達分科会	○ 存続
6	放射線・臨床検査分科会	○ 存続
7	腫瘍分科会	× 廃止
8	老化分科会	○ 存続
9	免疫・感染症分科会	× 廃止
10	臨床研究分科会	○ 存続
11	運動器分科会	○ 存続
12	移植・再生医療分科会	○ 存続
13	消化器分科会	× 廃止
14	放射線防護・リスクマネジメント分科会	○ 存続
★15	臨床医学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止
★16	医学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

7 委員会名: 健康・生活科学委員会

委員長名: 那須 民江

	分科会名	存続・廃止
1	パブリックヘルス科学分科会	○ 存続

第22期における分科会活動の総括結果(第二部)

2	健康・スポーツ分科会	○ 存続
3	看護学分科会	○ 存続
4	家政学分科会	○ 存続
5	子どもの成育環境分科会	○ 存続
★6	生活習慣病対策分科会	○ 存続
7	高齢者の健康分科会(再編成も考慮)	○ 存続
★8	健康・生活科学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

8 委員会名: 歯学委員会

委員長名: 戸塚 靖則

	分科会名	存続・廃止
1	基礎系歯学分科会	○ 存続
2	病態系歯学分科会	○ 存続
3	臨床系歯学分科会	○ 存続
4	歯科医療制度に関する検討分科会	× 廃止
★5	歯学教育分科会	○ 存続
6	脱タバコ社会の実現分科会	○ 存続
★7	歯学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

9 委員会名: 薬学委員会

委員長名: 橋田 充

	分科会名	存続・廃止
1	化学・物理系薬学分科会	○ 存続
2	生物系薬学分科会	○ 存続
3	医療系薬学分科会	○ 存続
4	トキシコロジー分科会	○ 存続
★5	薬学教育分科会	○ 存続
★6	チーム医療における薬剤師の職能とキャリアパス分科会	○ 存続
★7	薬学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

10 2部附置分科会

第22期における分科会活動の総括結果(第二部)

	分科会名	存続・廃止
★1	ゲノムコホート研究体制検討分科会	× 廃止
★2	生命科学における公的研究資金のあり方検討分科会	○ 存続

計 91分科会

廃止・終了は17分科会 (うち時限設置分科会11)

第22期における分科会活動の総括結果

第三部

1. 廃止する分科会

次の分科会を廃止する。

- ・情報学委員会所属「ソフトウェア工学分科会」
- ・機械工学委員会所属「マイクロ・ナノエンジニアリング分科会」
- ・機械工学委員会所属「東日本大震災対応分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「大規模地震災害総合対策分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「低炭素建築・都市マネジメント分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「大学等研究・教育キャンパス整備に関する検討分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会」
- ・材料工学委員会所属「バイオマテリアル・ナノテクノロジー分科会」

(以下、時限設置の分科会)

- ・環境学委員会所属「環境学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・数理科学委員会所属「数理科学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・物理学委員会所属「物理学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・地球惑星科学委員会所属「地球惑星科学大学教育問題分科会」
- ・地球惑星科学委員会所属「地球惑星科学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・情報学委員会所属「情報学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・化学委員会所属「化学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・総合工学委員会所属「総合工学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・機械工学委員会所属「機械工学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・電気電子工学委員会所属「電気電子工学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会」
- ・土木工学・建築学委員会所属「土木工学・建築学分野の大型研究計画評価分科会」
- ・材料工学委員会所属「材料工学分野の大型研究計画評価分科会」

2. その他の意見

- ・化学委員会所属「化学分野の参照基準検討分科会」及び電気電子工学委員会所属「電

気電子工学分野の参照基準検討分科会」は時限設置の分科会であるが、第23期も継続審議の必要があるため継続設置とする。

以上

第22期における分科会活動の総括結果(第三部)

(★は、時限設置分科会)

1 委員会名:環境学委員会

委員長名:石川 幹子

	分科会名	存続・廃止
1	環境科学分科会	○ 存続
2	環境思想・環境教育分科会	○ 存続
3	環境政策・環境計画分科会	○ 存続
4	自然環境保全再生分科会	○ 存続
5	環境リスク分科会	○ 存続
6	都市と自然と環境分科会	○ 存続
★7	環境学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

2 委員会名:数理学委員会

委員長名:楠岡 成雄

	分科会名	存続・廃止
1	数学分科会	○ 存続
2	数理統計学分科会	○ 存続
3	数学教育分科会	○ 存続
★4	数理学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

3 委員会名:物理学委員会

委員長名:伊藤早苗

	分科会名	存続・廃止
1	物性物理学・一般物理学分科会	○ 存続
2	素粒子物理学・原子核物理学分科会	○ 存続
3	物理学委員会天文学・宇宙物理学分科会	○ 存続
★4	物理学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

4 委員会名:地球惑星科学委員会

委員長名:永原 裕子

	分科会名	存続・廃止
--	------	-------

第22期における分科会活動の総括結果(第三部)

1	地球・惑星圏分科会	○ 存続
2	地球・人間圏分科会	○ 存続
3	社会貢献分科会	○ 存続
4	地球惑星科学企画分科会	○ 存続
★5	地球惑星科学大学教育問題分科会	× 廃止
★6	地球惑星科学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

5 委員会名: 情報学委員会

委員長名: 西尾 章治郎

	分科会名	存続・廃止
1	情報ネットワーク社会基盤分科会	○ 存続
2	E-サイエンス・データ中心科学分科会	○ 存続
3	情報科学技術教育分科会	○ 存続
4	ソフトウェア工学分科会	× 廃止
5	ユビキタス状況認識社会基盤分科会	○ 存続
6	ITメディア社会基盤・震災時メディアアーカイブ分科会	○ 存続
7	環境知能分科会	○ 存続
8	安全・安心社会と情報技術分科会	○ 存続
★9	情報学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

6 委員会名: 化学委員会

委員長名: 栗原 和枝

	分科会名	存続・廃止
1	化学企画分科会	○ 存続
2	物理化学・生物物理化学分科会	○ 存続
3	無機化学分科会	○ 存続
4	有機化学分科会	○ 存続
5	高分子化学分科会	○ 存続
6	材料化学分科会	○ 存続
7	分析化学分科会	○ 存続
8	結晶学分科会	○ 存続
9	生体関連化学分科会	○ 存続

第22期における分科会活動の総括結果(第三部)

10	触媒化学・化学工学分科会	○ 存続
★11	化学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止
★12	化学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

7 委員会名：総合工学委員会

委員長名：小長井 誠

	分科会名	存続・廃止
1	総合工学企画分科会	○ 存続
2	未来社会と応用物理分科会	○ 存続
3	工学基盤における知の統合分科会	○ 存続
4	エネルギーと科学技術に関する分科会	○ 存続
5	工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会	○ 存続
6	フロンティア人工物分科会	○ 存続
7	放射線・放射能の利用に伴う課題検討分科会	○ 存続
8	持続可能なグローバル資源利活用に係る検討分科会	○ 存続
9	計算科学シミュレーションと工学設計分科会	○ 存続
10	原子力事故対応分科会	○ 存続
11	サービス学分科会	○ 存続
★12	総合工学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

8 委員会名：機械工学委員会

委員長名：岸本 喜久雄

	分科会名	存続・廃止
1	生産科学分科会	○ 存続
2	ロボット学分科会	○ 存続
3	力学基盤工学分科会	○ 存続
4	機械工学企画分科会	○ 存続
5	マイクロ・ナノエンジニアリング分科会	× 廃止
6	東日本大震災対応分科会	× 廃止
★7	機械工学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

9 委員会名：電気電子工学委員会

第22期における分科会活動の総括結果(第三部)

委員長名:石原 宏

	分科会名	存続・廃止
1	制御・パワー工学分科会	○ 存続
2	デバイス・電子機器工学分科会	○ 存続
3	通信・電子システム分科会	○ 存続
★4	電気電子工学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止
★5	電気電子工学分野の参照基準検討分科会	○ 存続

10 委員会名:土木工学・建築学委員会

委員長名:和田 章

	分科会名	存続・廃止
1	土木工学・建築学企画分科会	○ 存続
2	国土と環境分科会	○ 存続
3	学際連携分科会	○ 存続
4	大規模地震災害総合対策分科会	× 廃止
5	地域環境の変化に伴う風水害・土砂災害への対応分科会	○ 存続
6	低炭素建築・都市マネジメント分科会	× 廃止
7	大学等研究・教育キャンパス整備に関する検討分科会	× 廃止
8	デザイン等の創造性を喚起する社会システム検討分科会	× 廃止
★9	土木工学・建築学分野の参照基準検討分科会	× 廃止
★10	土木工学・建築学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

11 委員会名:材料工学委員会

委員長名:前田 正史

	分科会名	存続・廃止
1	材料工学将来展開分科会	○ 存続
2	バイオマテリアル・ナノテクノロジー分科会	× 廃止
3	材料の循環使用検討分科会	○ 存続
★4	材料工学分野の大型研究計画評価分科会	× 廃止

計 80分科会

廃止・終了は21分科会 (うち時限設置分科会13)

(提案20-2)

科学研究に関する健全性の向上に関する検討委員会運営要綱（平成25年7月26日日本学術会議第176回幹事会決定）の一部を次のように改正する。

改正後	改正前																								
<p>(略)</p> <p>(分科会)</p> <p>第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">分科会</th> <th style="width: 25%;">調査審議事項</th> <th style="width: 25%;">構成</th> <th style="width: 25%;">設置期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究倫理教育プログラム検討分科会</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td>研究健全性問題検討分科会</td> <td>研究倫理問題に関すること</td> <td>委員会委員及び会員又は連携会員で合計15名以内</td> <td>平成27年4月30日</td> </tr> </tbody> </table> <p>(設置期限)</p> <p>第5 委員会は、平成27年4月30日まで置かれるものとする。</p>	分科会	調査審議事項	構成	設置期限	研究倫理教育プログラム検討分科会	(略)	(略)	(略)	研究健全性問題検討分科会	研究倫理問題に関すること	委員会委員及び会員又は連携会員で合計15名以内	平成27年4月30日	<p>(略)</p> <p>(分科会)</p> <p>第4 委員会に、次の表のとおり分科会を置く。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">分科会</th> <th style="width: 25%;">調査審議事項</th> <th style="width: 25%;">構成</th> <th style="width: 25%;">設置期限</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>研究倫理教育プログラム検討分科会</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> <td>(略)</td> </tr> <tr> <td colspan="4" style="text-align: center; padding: 10px;">(新規設置)</td> </tr> </tbody> </table> <p>(設置期限)</p> <p>第5 委員会は、平成26年9月30日まで置かれるものとする。</p>	分科会	調査審議事項	構成	設置期限	研究倫理教育プログラム検討分科会	(略)	(略)	(略)	(新規設置)			
分科会	調査審議事項	構成	設置期限																						
研究倫理教育プログラム検討分科会	(略)	(略)	(略)																						
研究健全性問題検討分科会	研究倫理問題に関すること	委員会委員及び会員又は連携会員で合計15名以内	平成27年4月30日																						
分科会	調査審議事項	構成	設置期限																						
研究倫理教育プログラム検討分科会	(略)	(略)	(略)																						
(新規設置)																									

<p>(庶務)</p> <p>第6 委員会の庶務は、事務局参事官（審議第一担当）<u>及び事務局参事官（審議第二担当）</u>の協力を得て、事務局企画課において処理する。</p> <p>(略)</p>	<p>(庶務)</p> <p>第6 委員会の庶務は、事務局参事官（審議第一担当）の協力を得て、事務局企画課において処理する。</p> <p>(略)</p>
--	---

附 則

この決定は、決定の日から施行する。

科学研究における健全性の向上に関する検討委員会
分科会の設置について(案)

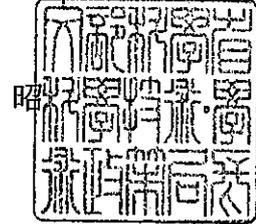
分科会等名： 研究健全性問題検討分科会

1	所属委員会名	科学研究における健全性の向上に関する検討委員会
2	委員の構成	委員会委員及び会員又は連携会員で合計 15 名以内
3	設置目的	<p>科学研究は社会からの信頼の上に成り立っており、こうした信頼が薄れたり失われたりすれば、科学研究がよって立つ基盤が崩れることになる。このため、日本学術会議では平成 25 年 1 月に声明「科学者の行動規範—改訂版—」を発出して研究者が遵守すべき規範を示すとともに、同年 12 月に提言「研究活動における不正の防止策と事後措置—科学の健全性向上のために—」を公表して、研究不正の事前防止策と事後対応策を提示した。</p> <p>しかし、研究活動における不正行為の事案が後を絶たず、社会的に大きく取り上げられるようになっている。こうした事態を背景に、平成 26 年 7 月に文部科学省科学技術・学術政策局長より研究健全性問題を検討するよう審議依頼を受けた。このため、様々な分野の意見を踏まえた科学研究における研究健全性問題を検討するために、新たな分科会として設置するものである。</p>
4	審議事項	研究倫理問題に関すること
5	設置期間	時限 平成 26 年 7 月 25 日～平成 27 年 4 月 30 日
6	備考	※新規設置

26文科科第161号
平成26年7月24日

日本学術会議
会長 大西 隆 殿

文部科学省科学技術・学術政策局長
川 上 伸



研究活動における不正行為への対応等に関する審議について（依頼）

文部科学省では、平成26年7月3日に「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（案）をとりまとめ、現在、パブリックコメントを実施しております。この結果を受け、平成26年8月末頃に新ガイドラインを決定し、平成27年4月より適用する予定であります。

つきましては、新ガイドラインの適用に当たり、学術に関する各分野の有識者で構成されている貴会議において、下記の事項について、御検討いただきますようお願いいたします。

なお、来年4月より新ガイドラインの適用予定でありますところ、本件依頼は、平成27年3月中までに御回答くださるようお願いいたします。



記

- 1 実験データ等の保存の期間及び方法（研究分野の特性に応じた検討）
- 2 研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務
- 3 特定不正行為（捏造、改ざん、盗用）以外の不正行為の範囲（二重投稿・オーサーシップの在り方等）
- 4 研究倫理教育に関する参照基準
- 5 各大学の研究不正対応に関する規程のモデル
- 6 その他研究健全化に関する事項

【幹事会附置委員会】

○委員の決定（新規1件）

（科学研究における健全性の向上に関する委員会 研究健全性問題検討分科会）

氏名	所属・職名	備考
小林 良彰	慶應義塾大学法学部教授	第一部会員
井野瀬久美恵	甲南大学文学部教授	第一部会員
福田 裕穂	東京大学大学院理学研究科教授	第二部会員
岡田 清孝	自然科学研究機構理事	第二部会員
戸山 芳昭	慶應義塾大学医学部教授	第二部会員
家 泰弘	東京大学物性研究所教授	第三部会員
依田 照彦	早稲田大学理工学術院創造理工学部	第三部会員
岸本喜久雄	東京工業大学大学院理工学研究科教授	第三部会員
三木 浩一	慶應義塾大学大学院法務研究科教授	連携会員